

社会鍼灸学研究 2017(通巻 12 号)

目次

序：一鍼は世界と通底する

形井秀一：筑波技術大学名誉教授 i

第 1 2 回社会鍼灸学研究会講演特集

テーマ：日本鍼灸の社会的意義を問う

—日本伝統医学、あはきカリキュラム改正、あはき療養費—

1. 社会鍼灸学的視点の意味はどこにあるか
形井秀一：筑波技術大学名誉教授 1
2. 「日本伝統医療」の特徴と存在意義
—国内外における日本伝統医療の戦略的共通課題—
小野直哉：公益財団法人未来工学研究所 12
3. あはきカリキュラム改正は鍼灸界をどう変えるか
嶺 聡一郎：社会鍼灸学研究会、日本教育財団 学校法人首都医校鍼灸学科 . . . 16
4. 日本における鍼灸療養費制度—現状と課題—
坂部昌明：公益財団法人 未来工学研究所 客員研究員 25
5. 「虎の子」1000 億円の行方～療養費を軸に鍼灸の将来を考える～
箕輪政博：社会鍼灸学研究会副代表 30
6. シンポジウム（全体討論） 39

研究論文

- ・鍼灸師の再教育講師養成講習会—戦後の鍼灸教育の原点—
奥津貴子：呉竹鍼灸柔整専門学校 47
- ・日本における鍼治療実施施設の実情について
八木賢訓、内山利男：セイリン株式会社 61
- ・診断権・開業権についての一考察
坂部昌明：公益財団法人・未来工学研究所 63

あとがき

箕輪政博：社会鍼灸学研究会 副代表 67